



重点分野2 (中目標) 農業開発 (高付加価値化・ビジネス化)

開発課題 (小目標) 農業開発	【現状と課題】 ルワンダは近隣諸国と比してGDPにおける農業セクターの占める割合が高く、農業が重要な産業である。農業生産量はカロリーベースでの自給を達成しているが、農民の収入は低いままであるために、高収益作物の生産を通じた農家の生計向上が目指されている。そのため、産業を構成する担い手（農家、仲介業者、卸売業者、加工業者等）の能力向上と、灌漑施設整備や制度の整備が課題として挙げられる。		【開発課題への日本の対応方針】 収益性の高い農業を促進するため、産業の担い手（農家や加工業者などの小規模経営体）の能力強化に加え、政府組織の能力強化や灌漑などの環境整備を支援する。										
	協カプログラム名	協カプログラム概要	プロジェクト名	スキーム	期間						支援額 (億円)	備考	
					2012年度以前	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
付加価値農業・ ビジネス振興 プログラム			灌漑開発アドバイザー	個別専門家	—						0.2		
			灌漑アドバイザー	個別専門家		— — — — —					0.2		
			丘陵地灌漑整備計画	協準	—								
			農業機械化アドバイザー	個別専門家		— — — — —					0.8		
			東部県農業生産向上計画	技プロ	—	—					6.0		
			小規模園芸農機組織強化計画プロジェクト	技プロ			— — — — —	— — — — —			5.0		
			微生物活用支援専門家	個別専門家	— — — — —						0.2		
			一村一品を通じた中小企業振興支援	個別専門家		— — — — —					0.3		
			栽培技術	長期研修	— — — — —						0.23		
			農業セクター中核人材育成	長期研修		— — — — —					0.21		
			付加価値農業・産業振興分野の青年海外協力隊（22名）	JOCV	— — — — —								
			農業開発分野の課題別研修ほか（13名）	課題別研修他	— — — — —								



重点分野4 (中目標)		成長を支える人材育成(科学技術教育・訓練)											
開発課題 (小目標) 科学技術教育・ 訓練の強化	【現状と課題】 ルワンダは国家開発計画「VISION2020」において知識ベース型経済(Knowledge-Based Economy)の実現を掲げ、人的資源開発、とりわけ科学技術分野の人材育成に取り組んでいるものの、依然、成長を支える人材は質・量ともに不足している。そのため、教育・訓練機会へのさらなるアクセス拡充と併せて、科学・技術教育及び職業訓練の適正化や質向上を通しての人材育成体制の構築が課題となっている。			【開発課題への日本の対応方針】 知識集約型経済の実現に向けて、ルワンダ政府が推進する「科学技術教育」の強化のため、科学技術社会の基盤となる人材育成にかかる制度及び教育・訓練機関の強化や産学連携への取組を支援する。									
	協カプログラム名	協カプログラム概要	プロジェクト名	スキーム	期間						支援額 (億円)	備考	
					2012 年度 以前	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度			
				教員間の校内相互研鑽強化プロジェクト	技プロ	—	—	—				1.65	
				トゥンバ高等技術専門学校強化支援プロジェクト フェーズ2	技プロ	—	—	—	—	—	—	7.2	
				教育計画モニタリングアドバイザー	個別専門家	—	—	—				0.8	
				ICT政策及び民間セクター開発アドバイザー	個別専門家		—	—	—			0.8	
				TVET機関における産学連携促進アドバイザー	個別専門家		—	—	—			0.8	
				中等教育の質的改善(広島大学大学院)	長期研修	—	—	—				0.23	
				理数科教師教育強化(鳴門大学)	長期研修		—	—	—			0.06	
			ICTを活用した社会開発・教育改革の推進できる人材育成(神戸情報大学院大学)	長期研修		—	—	—			0.11		
			科学技術教育・訓練分野の青年海外協力隊(24名)	JOCV	—	—	—						
			科学技術教育・訓練分野の課題別研修ほか(本邦研修18名)	課題別研修他	—	—	—						

	協カプログラム名	協カプログラム概要	プロジェクト名	スキーム	期間						支援額 (億円)	備考
					2012 年度 以前	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度		
その他			障害を持つ元戦闘員と障害者の社会復帰のための技能訓練及び就労支援プロジェクト	技プロ	—	—					2.0	
			途上国森づくり事業	農林水産省ODA	—	—						
			コンゴ(民)難民に対する緊急支援	マルチ		—					2.2百万USD	国連児童基金 (UNICEF)経由
			コンゴ(民)難民に対する緊急食糧支援	マルチ		—					1.7百万USD	国連世界食糧 計画(WFP)経由
			コンゴ(民)難民に対する緊急支援	マルチ		—					2百万USD	国連難民高等 弁務官事務所 (UNHCR)経由
			機関難民等への社会統合・コミュニティ開発支援	マルチ		—					3百万USD	国際移住機関 (IOM) 経由
			草の根・人間の安全保障無償(3件)	草の根無償	—	—					0.26	

【凡例】 「協準」(=全ての協カ準備調査)、「詳細設計」(=有償助定技術支援による詳細設計)、「技プロ」(=技術協カプロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協カ及び旧来の開発調査)、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」(=課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(=青年海外協カ隊)、「SV」(=シニア海外ボランティア)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「長期研修」、「科学技術」(=科学技術協カ(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(=草の根技術協カ)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協カ)、「無償」(=以下に特記するサブスキームを除く全ての無償資金協カ)、「ノンプロ」(=ノン・プロジェクト無償)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償)、「一般文化」(=一般文化無償)、「草の根文化」(=草の根文化無償)、「有償」(=円借款)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、実線「——」(=実施期間)、破線「- - -」(=実施予定期間)、黒丸「●」(=マルチの実施年度)